空知かいしゃ手帳 55

エクステリアに重点

特殊工法が徐々に人気

平野建設

＊岩見沢市　土木・造園

四年前に取り組み始めたエクステリア部門を昨年から本格化させた。中でも力を入れるのが、住宅の玄関前や中庭などの地面に施す「ステンシルコンクリート工法」と呼ばれるコンクリートへの特殊加工。完成後はタイルやれんがを敷いたように見え、徐々に人気が出てきているという。

この工法は豪州が発祥で、現地では車道の舗装工事などにも活用されているという。工程はコンクリートを流し込み、生乾きの状態で専用の型紙を置き、特殊な粉を散布してすり込む。粉の色は白、黄色、チョコレート色など十二種あり、調合も可能。型紙はれんが敷きやタイル敷き、天然石敷きなどを模した模様で十二種。コンクリートの表面が硬化した後、型紙をはがして保護剤を散布し、完成する。

「見た目は石やれんがを敷き詰めたような雰囲気ですが、インターロッキングのように、すき間から雑草が生えることがありません」と、エクステリア事業を担当する平野義文専務（34）は利点を強調する。また、ロードヒーティングに使用した場合、敷設したパイプを保護するコンクリートの上に直接、施工できるため、熱効率が良いのも長所という。

札幌の輸入代理店から材料を仕入れ、施工して一冬すぎた後の劣化など、性能チェックを経て導入した。昨年からホームページ（HP）に掲載すると、珍しさとデザイン性が喜ばれ、これまでの施工例は十五件に上る。

同社は、北海道農業開発公社などで二十四年間、農業土木工事に携わった平野重義社長（六七）が創業したこともあり、長く農業土木を中心に手掛けてきた。かつては公共工事が売り上げの大半を占めた。しかし、先細りする公共事業への危機感から、住宅のエクステリア部門に進出。さらに公共事業が激減する春先から夏にかけての端境期の仕事を確保するのも目的で、従業員の雇用を安定させる効果もある。

エクステリア部門は玄関へのアプローチや塀、花壇作りなど家周りのさまざまな工事を請け負う。売り上げは年に約二千万円で、まだ全体の一割程度だが、「公共事業の先行きが不透明な中、民間住宅のエクステリア部門の比率を高めていきたい」と重義社長。

一九九七年に全日本スノーボード選手権で優勝した経験もある義文専務は「公共事業と異なり、民間の工事は営業が大変だと実感しています。お客さんに喜んでもらうことを第一に考え、信用を大切に工事に当たりたい」と力を込める。

（実松充祥）

平野重義社長

〈メモ〉岩見沢市北3西4。1983年4月の創業。資本金2千万円。役員は社長ら4人で、従業員は社員5人と季節雇用7人、アルバイト9人。農業土木工事、一般の土木・下水工事、造園工事などが専門。2005年3月期の売り上げは約2億1千万円。HPはhttp://www.hira-ken.com/

ステンシルコンクリート工法で施工した玄関アプローチ